



女性俳句の草分けとして知られる杉田久女と、久女から指導を受け、戦後の俳壇で活躍した橋本多佳子の記念コーナー。小倉城庭園内にあり、中庭には橋本多佳子が住み、小倉の文化サロンとしてもにぎわった「檀山荘」をしのぶ灯籠、榻、蹲も設置されている。

杉田久女・橋本多佳子記念室

杉田久女(1890~1946) 橋本多佳子(1899~1963)



豊前出身の発明青年・矢頭良一の死を悼んで遺族におくった自筆の書(複製)が展示されている。

旧居には、鷗外が、

「即興詩人」の翻訳を完成し、「我をして九州の富人たらしめば」などを寄稿した。

森鷗外旧居

森鷗外(1862~1922)

明治の文豪、森鷗外は、明治32年6月から同35年3月まで、第十二師団軍医部長として小倉で勤務した。この鍛冶町の旧居は、鷗外が最初の一年半を過ごした家で、小説「鷄」はこの家が舞台である。また、この家でアンデルセンの

